

日本薬学会第 138 年会（金沢）

ポスター発表

【テーマ】 漢方薬使用患者に対する安全で効果的な服薬提案を目的とした取り組み

総合メディカル（株） そうごう薬局 新下関店 行友 啓悟

【目的】 漢方薬処方では併用による成分の重複で過量投与を引き起こすことがあるが、疑義照会を行うための過量の判断基準について一定の指針は無い。また、薬剤に消化器症状を惹起する特性がある場合、患者の病態により、食後服用を推奨提案することは、服薬アドヒアランスの維持に有用だが、添付文書に特に記載は無いため、薬剤師により対応に差が生じる。そこで、医師と薬局で漢方薬の安全で効果的な服用方法を提案する取り組みを行ったので報告する。

【方法】 重複投与を引き起こしやすい合方剤・処方群・薬効分類の一覧と、甘草・麻黄の含有量を包含した「漢方リスト」を作り、疑義照会を行う基準となる病態や投与量について応需先医師と設定し「鑑査スキーム」を作成した。また、食後服用の推奨や、冷服（熱を冷ます）と温服（新陳代謝を高める）など使用目的に応じた服用提案を行うための「服薬方法スキーム」を作成し、医師に共有した。両スキームは平成 29 年 3 月より 4 ヶ月間、当該薬局の薬剤師 3 名で使用し、疑義照会件数および服薬提案後の経過確認により有用性を評価した。

【結果】 期間中、漢方薬が処方された約 200 名中 7 名に、複数医療機関からの処方による甘草の過量投与や合方の併用が見られ、疑義照会で 4 名が処方変更となった。また「服用方法スキーム」により 15 名が飲みづらさや消化器症状回避などの提案により、期間中の服薬を継続することができた。

【考察】 今回、医師と判断基準を設けることで、複数の薬剤師で同じ鑑査を行い、疑義照会から処方変更へと円滑に進めることができた。漢方薬の服薬継続を妨げる要因を効率的に把握し、アドヒアランス維持のための提案を行うことができた。